

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800092		
法人名	特定非営利活動法人明成会		
事業所名	グループホーム おらほの家(別家)		
所在地	〒028-0526 遠野市下組町11-49		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に位置し、前庭のような野原と山がすぐ目の前にあり、日々の天候や季節の移ろいが感じられる等自然豊かな環境である。地域の自治会に加入し、班長としての個別配布やお祭りの協力参加など地域活動を利用者と職員が共同で行っている。山菜の下処理や、菜園で育てた野菜の収穫をし、それらが日々の食卓にあがる。ホームの名前のように、利用者一人ひとりにとっての我が家「おらほの家」に近づけるように、地域で暮らす「普通の暮らし」を常に考えながら、振り返りを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地に近接し釜石自動車道が付近を通る環境にある。同法人が運営する「おらほの家本家」と隣接して運営されており、お互いに協力し合い連携して介護支援に当たっている。「笑顔あふれる我が家」という理念を介護の実践に結びつけることを常に意識して利用者ケアにあたり、利用者の思いや希望を聞き出して、その実現に取り組み笑顔を引き出す取組みが日常的に行われている。このため、地域との連携と交流も大切なことと認識し、運営推進会議には地域の関係者が参加し、活発な意見交換が行われている。コロナ禍のため外出支援も困難な中であっても、利用者の希望に倣って、感染予防に配慮しながらの花見ドライブ等を行っており、その努力は評価できる。新たなハザードマップで浸水想定区域となったことから、迅速避難の意識が高く、その成果も期待できる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームおらほの家では、第二の我が家として、楽しく過ごして頂ける生活作りを目指しています。毎年度当初に理念について研修会を行い、職員は、生活そのものがリハビリに繋がるものと認識し、日々の生活に生かしている。	設立時からの理念「笑顔あふれる第二の我が家」を運営の柱としている。怖い顔を見ると不安になるという認知症特性を職員全員が理解し、毎朝の申送りでは「今日も笑顔で頑張りましょう」と唱和して気持ちを一つにし、笑顔あふれる介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会班長の活動に参加している。地域のお祭り(出演・見学)などの交流がコロナウイルス流行にともない、参加できなくなっている。	地域の自治会に加入し、年数回の清掃活動に参加するほか、事業所からは2ヵ月毎に「おらほの家だより」を下組町全体に回覧して様子を知らせている。コロナ禍のために、以前のような保育園児や高校生等の来訪は中止となっており、町内のお祭りも取りやめとなり、再開を心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へおたよりの発行し、グループホームの活動情報を提供している。地域の方からの介護相談を受けることもあり、情報の提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入所者の生活の様子や取り組みを報告する。推進会議の委員からは地域の情報を提供や、ホームへの助言も頂いており、運営に活かされている。	コロナ禍で5月までは書面開催としていたが、7月からは対面開催となっている。委員として区長や民生委員、町内会女性部長等の地域のリーダー的立場の方が多く参加しており、地域の課題についても意見交換している。また、委員には避難訓練時の見守りもお願いしている。	運営推進会議を通じて地域との連携を一層強め、さらには利用者の関心が高い近接の保育所との関わりを深めるためにも、保育所長の委員招聘について検討されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で、市と情報提供を受けている。困難事例の相談をし、よりよい利用者支援の方法を検討している。	市の地域包括支援センターから運営推進会議に参加し、様々な行政情報を提供してもらっている。コロナ感染対策としてマスクの提供を受けたり、感染情報も可能な範囲で随時提供されている。生活保護受給の利用者については、市福祉事務所のケースワーカーが定期的に来訪している。	

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きに基づき身体拘束廃止に努めており、利用者の状況に応じ、拘束を行わないケアを実践している。	管理者と職員で構成する委員会を年4回、研修会を9月と3月の年2回実施している。事故を防ぐとして行う過剰な制約を避け、なるべく利用者の任意とした結果、不穏な行動が少なくなってきた。家族の了解を得て、車椅子利用等で夜間の介助が必要な3人に足下センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修を定期的に行う他、虐待につながるような職員同士のケアに対する情報交換や連携に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度名は知っていても、勉強不足であるので、研修等を活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、安心して利用していただけるように、丁寧でわかりやすい説明を心がけている。利用中も、利用者に変化があった場合だけでなく、連絡を取り合い、ご家族と良い関係を維持できるよう努めている。解約に至る際も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が、話しかけやすい雰囲気作りに努めている。電話や来所された際には、こちらから、声を聞かせていただけるような働きかけをしている。	家族からは来訪時に意見等を伺うようにしており、近傍の家族には敢えて用事を頼んで来訪を促し、家族の思いを伺いながら利用者の日常生活の様子を伝えている。入居に後ろめたさを感じていた家族が、管理者との話し合いを重ねて、その誤解を解消できた例もある。また、職員へ不満のある利用者を朝の送りに参加させて苦情を話してもらい、落ち着いたケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人ひとりの要望や、事業に対する意見等を話せる環境維持に努めている。聞かせて頂いた内容は、反映している。また、運営内容等を職員に伝え、理解協力してもらえるよう努めている。	職員が提案しやすい雰囲気があり、毎日のように職員から意見等が出されている。管理者は「直ちに対応」を基本としており、例えば提案された行った利用者の席の見直しによって、利用者が穏やかになるなどの改善に繋がっている。個人面談も定期的に行われている。	

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に職員と話し合う機会を持つように努め、職員一人ひとりの頑張りを認めている。面談にて個々の要望等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ研修や経験年数別の研修の機会を設けている。働きながら資格取得が出来るように補助制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム合同で研修会や職員相互の交換研修や親睦会を行いサービスの質の向上を目指して取り組んでいたが、コロナウイルス流行にともないできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・家族と面談して、本人の思いと、入所までどのように過ごして来られたかを聞き取る。入所してからは、1日も早く慣れて安心して生活出来るように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたりご家族からの情報提供を受けて利用者支援の為に何が必要か、ホームでの対応の仕方など相談しながら支援に当たりグループホームへの理解を深めて頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、関係機関からの情報提供等で本人と家族の希望を聞き取りその時の状況に応じた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など職員と利用者一緒に出来る事を行い、一人ひとりの得意なものや経験を活かせる場面作り、教えてもらったりしながら共に支えあう関係を築いている。利用者との会話を多くとり、本人を知ろうと努めている。		

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報を共有し、家族の意向を大切にしながら安心・信頼して頂けるように努めている。面会や電話、手紙などで家族との時間を大切にできるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や行きつけの場所など継続して出かけられるように支援している。	利用者にとってお墓は大切な場所であり、彼岸やお盆になるとお墓参りの支援を行い、それで落ち着かれる方が多い。このため、入居時には菩提寺と墓地の情報が不可欠のものとなっている。また、2ヵ月毎に来訪する理美容師が、新たな馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、いやな思いをさせず、同じ時間を過ごしていただけるよう努めている。コミュニケーションが難しい利用者には職員が間に入り中継ぎする時もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設に移られた場合や、入院中の相談、日常的な支援に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や表情から本人の意向を把握するように努めている。	利用者の思いは記録に残して職員間で共有しており、家族から聞き取る場合もある。中には、趣味や特技を活かし、編み物が得意な人はコースターを作り、和裁の人は雑巾を縫ってくれている。家族は事業所からの連絡があれば、その度に材料を届けてくれている。利用者からは食べ物の希望も多く、山菜の季節になると近所でヨモギやフキを採って味わったり、昔ながらのおやつ作りを楽しんでおり、事業所が「郷土料理伝承館」となる季節も年に数回ある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族、関係機関からの情報提供等で把握し職員間で共有することでホームでの生活支援が円滑にすすんでいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのアセスメントと定期的なモニタリングにより把握する。一人一人の小さな変化を職員それぞれが見逃さないようにし、共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の変化などを、時間を空けずに家族と話し合えるようにしているので、早い対応がとれる。日々の話し合いやミーティングで意見交換し、反映している。毎月のモニタリングには、本人家族の要望も取り入れ計画されている。状態の変化による見直しも定期的に行っている。	職員1人が、1、2名の利用者を担当して行うモニタリングは全職員が参加して毎月行われており、中長期の目標達成状況を特に留意している。その結果をもとに管理者と計画作成担当者が協議し、必要に応じて修正や追加等を行いながら、概ね3か月毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、事実をありのまま記録し、日誌には、日々の変化や、注意点を記載し、全ての職員が、情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りに同行など、本人が今行いたい気持ちに、今対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバー(民生委員、地域包括支援センター)にホームでの様子や取り組みを情報提供し意見を頂き支援に活かしている。消防訓練に参加してもらい協力体制を確認している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医に継続して見てもらえるように家族、利用者の希望に配慮し、通院介助を行っている。往診協力も受けている。	市内の3か所の診療所が、入居前からのかかりつけ医となっており、今はコロナ禍でもあり、管理者が通院に同行している。また、訪問診療を2名が利用している。所長は看護師も兼ねており、日常的な健康管理を総括し職員に指導や助言を行っている。	

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理や身体状況の把握に努めている。体調不良時や急変時には、速やかに連絡し指示をもらう体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、病院に入所中の様子を情報提供し、家族と一緒に病状説明を受けるようにしている。家族と利用者の希望に配慮しながら早期退院に向けた支援を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所する時に重度化した場合や終末期について家族に説明し、状態の変化に応じて家族の意向に沿った支援をしている。現在まで看取りの実績はないが事業所の方針とご家族の協力を得ながら利用者の終末期が安心して迎えられるように取り組んでいく。	介護度3になった場合に特養施設への入所申請を勧めているが、事業所での看取りを希望する方も出ている。入居者の中には、かかりつけ医が看取りの協力を約してくれている方がおり、事業所としても看取りを行うこととしている。今後に向け、職員の研修を進めながら看取りに取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を受けて、緊急時には対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	遠野市の災害時緊急避難避難所の指定を受け災害時の対応を検討している。避難訓練の定期実施には運営推進会議の委員に参加協力お願いしている。火災の避難訓練はしているが災害時の避難訓練は、まだ不十分である。	火災想定での避難訓練は、夜間想定を含めて年4回実施している。自力で避難可能な利用者は3名に過ぎず、夜間に避難する上での課題も把握している。また、ハザードマップの見直しで浸水地域とされたが、避難場所の福祉センターまでは、増水時に橋を2カ所渡る必要があり、早めの避難開始が肝要であると認識している。	浸水想定地域となっているため、高齢者等避難開始発令時に速やかに避難開始する必要があり、消防や市の担当課との協議を密に行い、当日の避難経路や職員の招集計画など、具体的な避難計画の下で訓練が行われるよう期待したい。なお、避難場所の福祉センターで使用可能な備品等については、予め確認しておくことが不可欠と思量される。

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時には、特に不快感を与えないように十分な注意をはらい、言葉かけをおこない、他の人の目に触れないようにしている。	男性利用者が入居したが、プライドが高い傾向があり、失禁の際の対応について、女性利用者だけの場合と大きく異なることにも留意し、利用者の誇りを損なわない対応に努めている。女性の場合でも、入浴や排泄の際には、周りから見えないよう、気付かれないよう声掛けや誘導に配慮している。利用者が持っている力を引き出す場合には、利用者の作業が何をもちたらずかを説明し、納得を得ながら進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せない利用者もいるので、表情やしぐさなどから思いをくみ取り、それを引き出すような言葉かけをしている。日々の生活場面での(献立やテレビの番組、日中活動)希望を取り入れる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の様子や希望に併せて過ごしている。体調に併せて自室で過ごしたり、入浴や食事の時間をずらしたりする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は特に服装、ヘアスタイル等に配慮して支援している。普段は、髭剃り、服装の乱れた場合の直しなど。なじみの理、美容院への利用や化粧品購入など支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、調理など今までして来たこと、出来そうなことなどを支援を受けながら職員と一緒にやっている。日々の生活の中で利用される方の嗜好や、食べたいものの把握をしている。	施設長が献立を作成し、職員が利用者の好みも考慮しながら調理している。自家菜園では利用者も一緒に夏野菜等を育てており、収穫したトマトや枝豆、ブルーベリー等が食卓を彩っている。利用者は食事の下拵えやおやつ作りにも参加して楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事摂取量を確認し、体調や状態に合わせた量や形態を工夫している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に併せたさりげない声かけや介助で支援している。口腔ケアが健康上重要であると職員がよく理解し支援している。定期的な歯科受診、治療を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を支援し、日中のオムツやパットの使用を減らす努力をしている。	利用者は昼夜ともにトイレで排泄出来ている。排泄チェック表も活用しながら、素振りなどを見て「さり気なく、気遣いしながら」トイレに誘導している。ほぼ全員がリハビリパンツを使用しているが、温かく不快感がない利点があり早めにお勧めしている。在宅時の状況から大きく改善する例が多く、利用者からも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り水分や牛乳、食物繊維を多く取り入れ、運動など個々に応じた便秘予防をし、自然排便の促しに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯はだいたい決めているが、個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援している	週4日お風呂を準備し、概ね週2、3回の入浴となっている。入浴を嫌がる場合もあり、強い拒否が出る前に話を良く聞いて職員を交代するなどして対応している。浴槽への移動を容易にするためバスボードを備え、季節に応じてヨモギやバラの花を浮かべてリラックスする時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を通して夜間安眠できるような生活リズムを整えることを大事にしている。夜間は居室内の照明や温度、加湿等、安眠できる環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの服薬情報を把握するようにしている。新しい薬が処方された場合は、服用後の様子についても申し送りをする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりその方が楽しいと思える事、安心して過ごせる事を把握し、支援している。レク活動やドライブ等で気分転換を図る。これまで生業としてきたことを続けてもらえるような支援も行っている。(編み物や裁縫)		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の買い物、通院、散歩や、利用者の希望でドライブし、場所は、本人の希望を取り入れている。	コロナ禍にあっても施設内に閉じこもることのないよう支援している。近くのドラッグストアでの買い物や散歩に出かけたり、感染予防に配慮したうえで、利用者の希望を伺いながら、桜やアジサイ、紅葉見物のドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を所持している方はいない。自身のお金を預けていることを理解されている方には、通院時の支払いを、ご自身の手で行えるよう支援している。家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度支援している。また、こちらからも提案し行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なものがないように気を配り、装飾で季節感を取り入れるように工夫している。居室同様、共用空間の室温、照明、換気にも気をつけている。ホールに植物や皆さんで作った作品を置き、話題に上がるようにしている。	天窓から差し込む光の下で、南面の大きな窓からは里山が望まれ、ゆったりとした気持ちにさせる。ホールはエアコンとガスヒーター、加湿器で適温の空調がなされ、壁面にはお花紙で作った季節感ある貼り絵が飾られている。カレンダーの横には当日の職員の顔写真が貼りだされている。利用者は各自の指定席で思い思いにゆっくりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の交流の場が持てるようにテーブルの配置を工夫している。自由に移動し、利用者同士が会話できるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いやすさを、相談しながら配置を決めている。	居室はエアコンで適温に空調され、衣類は使い慣れた衣装ケースや小箆筒、パイプハンガーで整理されている。利用者はテレビや大切な家族写真を持ち込み飾っている。編み物好きな方の部屋には、お手製の花瓶敷があり、読書好きの方は蔵書が多いなど、各入居者にとって居心地良い部屋となっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家(別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、動線に配慮してすや手すりを設置している。利用者の状態に応じてトイレなどの表示もわかりやすくしている。		